

コリント人への手紙第一10章13節 「試練に遭うとき」

1A 神の与える試練

1B 信仰の真価

2B 霊的な成長

3B 誘惑との違い

2A 他の人たちとの共有

1B 孤独との戦い

2B 慰めの神

3A 真実な神

1B 耐えられる試練

2B 脱出の道

本文

コリント人への手紙第一 10 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びが、先々週ですが、9 章まで来ました。今日の午後礼拝で 10 章を一節ずつ見ていきますが、今朝は 13 節に注目します。「あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。」

パウロは、10 章においてコリントの人たちに、イスラエル人が荒野の旅で滅んだことを取り上げて、それを教訓にきなさいと教えています。それは、彼らが「世の終わりに臨んでいる」からだと言っています(11 節)。世の終わりには、数々の困難や試練、また誘惑が襲ってきます。アダムが罪を犯して世界に罪が入ってきて以来、罪や不法が世の終わりにおいて積み上がっています。そして悪魔も最後のあがきをして、神に歯向かいます。キリストが戻って来られて、悪を滅ぼし、正義と平和に満ちた神の国を打ち立ててくださいます。その光が来る直前に生きるキリスト者に、励ましをパウロは与えたかったのです。試練にあっても神は真実な方だと励ましています。

1A 神の与える試練

1B 信仰の真価

私たちは人生の中で、試練は付き物だということを良く知っています。ここにおられる方々のほとんど全員が、人生の中で試練または苦しみがあったから、主を知ることができたと思います。「詩 119:71 苦しみにあったことは私にとって幸せでした。それにより私はあなたのおきてを学びました。」

苦しみは、神が初めに天地を造られた時には存在していませんでした。人が罪を犯して、そこから苦しみが世界に入ってきました。しかしながら、神はご自身を人々に知らせるために、積極的に試練をお用いになります。そのことによって、神の言われることに信頼して、従っていくようにすることができるためです。かつては、善悪の知識の木が園の中央にあって、その木から実を取って食べたら死ぬという言葉は神はアダムに語られましたが、それだけが、神の言われることに聞き従うかどうか試される場所でした。そのことによって、神の言われることによって生きることが確かなものとなるためです。人は、神の言われること、そのことばによって生きるように造られています。罪が入って苦しみがある今、なおさらのこと、逆境であっても、なおのこと神を信頼して、この方の言われることに聞き従うことができるように、そうした苦しみを用いられるのです。

モーセは、荒野の旅をしているイスラエルのことについて、こう言いました。「申 8:2 あなたの神、【主】がこの四十年の間、荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えていなければならぬ。それは、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心の中にあるものを知るためであった。」荒野にいますから、水が不足して喉が渇きます。食べ物はありません。しかし主は、必ず毎朝、マナを下さいました。また、泉に導いたり、岩から水を出したりして、飲む物をくださいました。そのような苦しみの時に、自分たちの心にあるものが何であるかを知ることができます。神は、そういった真実をもって、ご自分の子であるイスラエル人と付き合いたいと願っておられるわけです。そして、私たちとも同じです。イエス様は、二つの家の喩えを使われて、弟子たちに、砂の上に家を建てているか、それとも岩の上に建てているかを洪水によって明らかにされることを、山上の垂訓の最後に語られました(マタ 7:24-27)。その洪水が試練であって、世の終わりにはそれがとみに大きくなることを教えています。

ペテロも語りました、「I ペテ 1:5-7 あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。6 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならないのですが、7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。」終わりの日には救いがありますが、今しばらくの間は、様々な試練があります。しかし、その中で信仰が精錬されていき、純化されていき、その信仰によって、イエス様の現れの時に称賛と栄光と誉れをもたらします。試練を受けるととても不思議なもので、信仰がいかに神の恵みによる賜物かが分かります。

ちょうど、オリンピックの選手が、準決勝、決勝となっていくと、強豪な相手に対して、これまで見せなかったプレーを見せて、観衆を驚かせることがありますね。困難な状況だからこそ、自分に与えられている能力が一気に出てくるのです。キリスト者も、試練に遭う時にその真価が現れて、その人ではなく、ただ神の恵みがその人を支えていることが明らかにされるようになります。

2B 霊的な成長

試練はまた、信仰者を成長させます。試練や困難があるからこそ、忍耐を働かせて、成熟へと向かいます。「ヤコブ 1:2-4 私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。3 あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。」キリスト者として成長し、成熟した大人になりたいと願うと思います。それは、試練に遭う時に、それでも神がここにおられると信じて、おられると分からないからこそ信仰を十分に働かせて忍耐する時に成長します。

ある牧師さんが、試練について説明する時に、筋トレのことを話していました。筋トレの時に大切なのは、自分が今、簡単にできる負荷より、少し強い負荷をかけることなのだそうです。また別の牧師さんも、礼拝の後、日曜の晩でしょうか、筋トレをするそうですが、三種類のダンベルを並べた写真を載せていました。5キロ、10キロ、そして30キロです。少しずつ負荷をかけて、5キロから30キロまで持ち上げることができるようになったんでしょうね。筋肉がいわば成長するには、必ずややきつめの負荷が必要だということです。

霊的にも同じなのです。私たちは、神を信じています。けれども、その神への信頼が上がるというのは、今までの経験では想定できなかったことが起こる時、いわゆる試練が起こる時にそれでも信じることによって、引きあがります。それでも信じて、神の真実をその時に知ります。その神との体験はかけがえのない財産で、次に同じような困難が来た時も、主は助けてくださると体で覚えているのです。アブラハムの信仰の生涯がそうでした。彼は、初めカナンの地で飢饉が起こって、エジプトに下って行ってしまったほど、信仰的には未熟でした。しかし、自分が百歳の時にイサクが生まれるなど、神の真実を体験します。そこで、イサクを全焼のいけにえとして献げなさいと命じられた時に、疑うことなく黙々と備えをして、モリヤ山に向かったのです。

2B 誘惑との違い

ところで、本文、10章13節は、英語の聖書ですと「試練」のところが、「誘惑(temptation)」と訳されています。「あなたがたが経験した誘惑はみな、人の知らないものではありません。」というように訳されています。これはどちらも正しくて、ギリシア語ペイラスモス(πειρασμός)は、誘惑とも試練とも訳すことのできる言葉です。ですから、文脈にしたがって、訳すときにどちらの言葉を使うか、それぞれが決めます。それで日本語訳の聖書は「試練」を、英訳の聖書は「誘惑」を使っています。

この二つの違いは似ているようで大きいです。試練は、神がもたらします。しかし誘惑は、悪魔がもたらします。試練は、信仰が成長するために与えられます。誘惑は信仰から離れるために、与えられます。試練は、信仰を働かせる機会となりますが、誘惑は、罪を行なう機会を作ります。先ほどヤコブの手紙1章から、試練について引用しましたが、同じ1章で、誘惑についてもヤコブ

は述べています。「1:13-15 だれでも誘惑されているとき、神に誘惑されていると言ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれかを誘惑することはありません。14 人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われるからです。15 そして、欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。」

試練に対しては信仰を働かせるのですが、誘惑に対しては、まず、悪魔に抵抗することで対応します。罪を犯すようにそそのかされるのですが、それでも神に従い、そして悪魔に相対するので、エバが、蛇に誘われた時に、「退きなさい。あなたは、私に罪を犯すようにそそのかしているが、そうはさせない。神があなたを裁かれるように。」と言って、退ければよかったです。同じくヤコブの手紙には、誘惑への対抗が次のように書いてあります。「4:7 ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」

2A 他の人たちとの共有

では、改めて本文をじっくりと見ましょう。パウロは、初めに、「**あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。**」と語っています。

1B 孤独との戦い

私たちが試練を受ける時に、それは自分だけがこの試練を受けているという思いにさせられます。誘惑もそうでしょう。自分の肉にある欲望のゆえに、悪魔にそそのかされるのですが、自分が特別にその誘惑を受けていると思ってしまう。自分一人だけが、と思ってしまうのです。けれども、その悩みを打ち明けてみると、実は他にも同じ戦いや葛藤をしている人々が大勢いることを知ることになります。それがここで言っていることで、「**人の知らないものではない**」ということなのです。

預言者エリヤのことを思い出します。彼が、バアルの預言者と対決した時に、彼の祭壇だけに火が天から降り、いけにえを飲みつくしてしまいました。それでイスラエルの民が、主こそが神であり、バアルではないことを知りました。エリヤは、バアルの預言者を殺せと命じました。けれども、バアル信仰を持ちこんだ黒幕であり、イゼベルの脅し文句によって彼は恐れに満たされます。彼ははるか遠くにある、シナイ山にまで逃げます。そこで、かすかな細い声で神が、「ここで何をしているのか。」と問いかけられました。するとエリヤは答えました、「I 列王 19:14 私は万軍の神、【主】に熱心に仕えました。しかし、イスラエルの子らはあなたとの契約を捨て、あなたの祭壇を壊し、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうと狙っています。」自分独りだけが残った、それで彼らは自分のいのちを取ろうとしていると訴えました。けれども、主は、「しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残している。」と教えられます(19:18)。バアルに膝をかがめなかった者たちが、なんと七千人もいたのです。

ですから、私たちは、独りになって思いつめてしまっただけではいけないですね。試練に遭っている時

は、打ち明けるといふことが必要です。そうすることによって、自分で自分を追い詰めることがなくなりません。

2B 慰めの神

そして、他にも同じような試練を通過している人々、また通過した人々が、共にいることを知ります。「一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに痛み…」とあるとおりです(12:26)。このようにして、自分は、人々を通して神からの慰めを受けることができます。

私たちは、神ご自身が慰めの神であり、それは人々が苦しみを通過して神の慰めを知り、その慰めをもって人々に互いに仕えるように神がしておられることを知る必要があります。コリント第二 1 章に、その慰めについて詳しくパウロは証しています。長くなりますが、引用してお読みします。「Ⅱコリ 1:3-6 私たちの主イエス・キリストの父である神、あわれみ深い父、あらゆる慰めに満ちた神がほめたたえられますように。4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人々を慰めることができます。5 私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。6 私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます。」

私たちは、なぜ自分がこのような苦しみを受けているのか分からないことがあります。けれども、その苦しみは実は、慰めの神を知るためであり、その慰めを他に苦しんでいる人々が受けることができるようにするためなのだ、ということです。大晦日から上映される、「君といた 108 日」¹には、そのことが良く描かれています。癌によって体が蝕まれているからこそ、数多くの人々に慰めと救いを与える働きができると、主人公の彼女メリッサさんは信じて、天に召されました。

3A 真実な神

そしてパウロは、「**神は真実な方です。**」と言いました。試練を受けている時に、どうして神は、こんなことをお許しになられるのですか？と私たちは問います。けれども、神は真実な方なのです。試練という、いかにも神が真実ではないと思わせるようなことであっても、いや、神はそれでも真実なのだ、パウロは励まします。二つの点で語っています。

1B 耐えられる試練

一つは、「**あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。**」ということです。神は、初めから最後まで、あなたのことを知っておられ、それで試練が起こることを許されています。したがって、その試練が起こっているということは、神が何か自分を疑って、どれほどわたしを信じ

¹ <https://kimitoita108days.com/>

ているのか確かめているのだ、ということではないのです。むしろその反対で、神は、あなたがご自身を信頼しているのを知っているからこそ、語弊があるかもしれませんが、神は、ご自分を信頼しているあなたを信頼しているからこそ、そのような試練を与えられました。

その代表的な人は、ヨブです。神は、サタンがヨブに苦しみを与えるのを許されましたが、サタンに対してヨブのことを誇っている言葉があります。「2:3 おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように、誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっている者は、地上には一人もいない。彼はなお、自分の誠実さを堅く保っている。おまえは、わたしをそそのかして彼に敵対させ、理由もなく彼を呑み尽くそうとしたが。」このように、神がサタンにヨブのことを威張っておられるのです！ そのことを知っておられて、敢えてサタンがヨブを虐げるのをお許しになりました。ヤコブがこのように、ヨブのことを説き明かしています。「ヤコブ 5:11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いですと私たちは思います。あなたがたはヨブの忍耐のことを聞き、主によるその結末を知っています。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられます。」今、みなさんの中にも試練を受けておられる方がいらっしゃるかもしれない。けれども、その先には神の慈愛、憐れみを知ることができるようになっています。

2B 脱出の道

神が真実であることのもう一つの根拠は、「むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。」ということです。試練を受けないようにされるのではなく、試練と共に、脱出の道、逃げることのできる道も備えておられる、ということです。矛盾しているように聞こえますね。脱出できるのであれば、試練そのものからも逃れることができるのではないか？と思います。けれども、試練と共に脱出があるのです。

ヨセフのことを思い出してください。彼は、兄たちに奴隷としてエジプトに売られてから、ポティファルというファラオの家臣にところで仕えました。その妻に、「一緒に寝ましょう」と言い寄せられたのです。けれども、それは神に対して罪を犯すことになるという拒みしました。ついに彼女は、彼の上着をつかみました。ヨセフは、その上着を彼女の手に残して外へ出たのです。彼は脱出したのです。主は脱出の道を備えてくださいました。しかし、その妻はなんと上着をもって、ヨセフが自分と寝ようとしたとして逆に訴えました。ヨセフは、王の囚人たちが監禁されている監獄に入れられたのです。「それでは、脱出していないではないか？」と思われるかもしれませんが、いいえ、創世記 39 章 21 節、「しかし、【主】はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心にかなうようにされた。」主が共におられたのです。主ご自身が逃れの道だということです。そして主がおられるので、一時の間、苦しみや悩みを通るかもしれないけれども、必ず良くしてくださいます。ヨセフと共におられた主は、初めからご計画を持っておられ、ヨセフによってヤコブの家族が飢饉から救われることを計画しておられたのです。ヨセフは、その後、夢を見たファラオに謁見し、その夢を解き明かし、ファラオの次に権力のある者とされました。その権力を使って、ヤコブの家族をエジプトに

引っ越させることによって、飢饉から救ったのです。

同じように、ダニエルの友人を見ましょう。バビロンの王ネブカドネツアルは、金の像を造りました。国中の役人はその前にひれ伏し拝みましたが、彼らは拒みました。彼らは燃える火の炉に投げ込まれたのです。投げ込まれることは免れなかったのです。では、どうだったのか、火の中で、第四の者、神々の子のように見える方が真ん中におられて、火から害を受けることがなかったのです。そう神々の子と王が行ったのは、神の御子イエス・キリストご自身のことです！そして彼らは火の中から救い出されました。同じようにしてダニエル自身も、ダレイオス以外の者、つまりイスラエルの神に祈りをささげ、獅子の穴に投げ込まれました。獅子の穴には入ったのです。そこから救われることはありませんでした。しかし、その穴で御使いが獅子の口をふさいでいました。それで救われたのです。このようにして、試練はあるのですが、試練とともに脱出の道があります。

神は真実な方です。試練において、神は裏切ることは決してなさいません。逃れの道であるイエスご自身がおられます。私たちをその試練の中で助けてくださいます。